



—特集—
ENJOY
BOOKS
本を楽しむ

梅雨入りや
外出自粛、
おうち時間、
こんな時期こそ、
「本」を楽しもう

晴耕雨読

今年の鹿児島県の梅雨入りは、5月30日でした。九州南部の梅雨明けは、例年7月中旬頃と、夏の外出を楽しむには、もう少しかかりそうです。また、新型コロナウイルスの影響で、新しい生活様式など、おうち時間を充実させるいつもと違う過ごし方が求められています。

今回の特集は「本」。垂水市立図書館やスタッフおすすめの最新刊、先般行われた、子どもたちに本を届ける「応援ブック事業」などの「本」にまつわる話題をご紹介します。

「晴耕雨読」とは、世間の煩わしさと離れて、晴れた日には田畑を耕し、雨の日には、読書を楽しむ気ままな暮らし。そんな生活もたまにはいいのではないのでしょうか。「本」を楽しみ、あなたの生活に新たな1ページを開いてみるには、いかがでしょうか？

読書の楽しみ・喜びを



垂水市教育委員会
教育長 坂元 裕人

子どもが読書に浸っている姿は実に楽しそうです。楽しい場面では笑顔になり、悲しい場面になると表情が曇ってきます。まるで全体で、「本」の世界を堪能しているようにさえ思えます。読書は「心の栄養」と言われる所以でもあります。

一方で、校種が上がるにつれて、読書から離れていく子どももいます。ですが、心配はいりません。今の子どもたちは多忙です。でも、一度読書の楽しみ・喜びを体験した子どもは、大人になってから再び本を手にするようになります。

だからこそ、幼児期、学校業務が行われていました。図書館の建設には、新城出身で総理大臣秘書官などの要職も務めた中村四郎氏の寄付金1億円が当てられました。この寄付金は中村氏の死後、ご遺族が遺産の一部を寄贈されたもので、生前、中村氏が郷土の文化・教育、人材育成



図書館ボランティアおはなしサークル「野いちご」による児童への読み聞かせの様子

教育期における読書は大事にしたいものです。ご家庭でも読み聞かせをしたり、読書のよさや本の面白さを話題にしたりしていただければ、本好きな子は自然と育ちます。豊かな心を育てる読書習慣を身に付けることは、子どもにとって「一生の財産」となることを、保護者も教育関係者も心に留めながら、関わっていただくことを願い、自ら読書を楽しむ人でありたいと思っています。

私たちの
垂水市立図書館

Our Tarumizu City Library

現

在の垂水市立図書館は、平成3年に完成しました。開館当時は、2万8千冊の図書が揃えられ、パソコンでの図書管理のシステムが導入されました。現在の図書館ができるまでは、市民館にあった図書室、地区公民館図書室、移動図書館などにより図書館

現

在の垂水市立図書館は、平成3年に完成しました。開館当時は、2万8千冊の図書が揃えられ、パソコンでの図書管理のシステムが導入されました。現在の図書館ができるまでは、市民館にあった図書室、地区公民館図書室、移動図書館などにより図書館

現

在の垂水市立図書館は、平成3年に完成しました。開館当時は、2万8千冊の図書が揃えられ、パソコンでの図書管理のシステムが導入されました。現在の図書館ができるまでは、市民館にあった図書室、地区公民館図書室、移動図書館などにより図書館



垂水市立図書館
住所：垂水市南松原町 38
☎ 0994-32-7111
時間：9：30～18：00
休館：毎週月曜日



昭和47年頃の
垂水市立図書館
現在の垂水市市民館の場所にあった昔の図書館。この後、市民館内の図書室で図書業務は行われました。



中村四郎氏
明治28年新城村麓に生まれる。東京帝国大学卒業後、内務省に入省。総理大臣秘書官、徳島県知事、宮内省警衛局長主馬頭を歴任し、昭和20年に退官。退官後は、鹿児島奨学会理事長などを務め、平成元年2月死去。(市報たるみず平成元年3月号より)



落成式
平成3年11月1日垂水市立図書館落成式の様子。



垂水市立図書館で
一番古い本
図書館で出版年が一番古い本は、「垂城史談」(1931年3月出版)。手書きの文章は、いかにも趣があります。※貸出はされていません。